

博士論文の審査結果の要旨

専攻	保健医療学専攻	分野	看護管理・政策学領域
学籍番号	16S3026	院生氏名	佐藤 京子
通学キャンパス	東京赤坂キャンパス		
論文題目	看護管理職の管理能力に影響を及ぼす要因		
審査結果(枠で囲む)	合格 不合格		
<p><審査結果の要旨></p> <p>1. 研究の概要と価値</p> <p>本研究は、看護管理職の管理能力に影響を及ぼす要因を明らかにすることを目的として、69施設1,291人の看護管理職を対象に無記名自記式質問調査による1年間の縦断研究を行ったものである。調査の前段階として、文献検討ならびに複数の看護師・看護研究者との討議等に基づき、研究の概念枠組みの作成と尺度選択を行った。研究1では、ベースライン調査で管理能力に影響を及ぼす要因を調査し、1年後の管理能力に影響を及ぼす要因を、重回帰分析により解析した。研究2では、1年間で管理能力が向上した群と向上しなかった群を比較し、管理能力が向上することへの影響を及ぼす要因をロジスティック回帰分析を用いて解析した。その結果、それぞれの影響要因が明らかになるとともに、感情のコントロールや役職へのコミットは、管理能力が高いことにも、管理能力が向上することにも影響しているという共通点が示された。</p> <p>本研究の実施に当たっては、本学倫理審査委員会の承認を得た上で、対象施設の看護部長に対し本研究の趣旨を文書と口頭にて説明し、同意が得られた看護部長を通じて対象者への自記式質問紙の配布を依頼した。質問紙は無記名であり、対象者には、配布文書にて研究の目的等を説明するとともに、質問紙への回答をもって調査への同意とすることを伝えており、倫理的な問題はないと考えられた。</p> <p>本研究の新規性は、1年間の縦断研究により看護管理職の管理能力が高いことへの影響要因および管理能力が向上することへの影響要因、ならびにそれらの共通点について明らかにしたことにある。これらの新規性は、看護管理職の管理能力向上のために病院管理者が行うべきサポート体制について示唆を与える研究として、高く評価できる。</p> <p>2. 審査経過</p> <p>審査会は2回開催した。初回審査において、論文の構成を改善すること、新規性・独創性を明記すること、縦断研究を実施したことの意義を記述すること、育成可能なスキルに焦点を当てて考察すること、などについて指摘があり、加筆修正を求めた。2回目の審査では、初回審査で指摘した事項を論文全体に反映されているか確認したが、部分的に不完全な箇所があったため、再度の修正を求めた。その結果、適切に加筆修正されたことを審査員全員で確認した。</p> <p>3. 口頭試問</p> <p>2回の口頭試問において、尺度の選択方法、研究デザイン、データ分析等について具体的な研究過程の説明を求めたところ、適切に応答した。</p> <p>以上の審査結果から、審査会の審査員全員は本論文の著者に博士(看護学)の学位を授与するに十分な価値があるものと認めた。</p>			
論文審査担当者	主査	池田 俊也	
	副査	坪倉 繁美	
	副査	堀本 ゆかり	